

地域協働 まちづくり NPO グラウンドワーク
 社会的企業 環境再生 コミュニティ再生

1. 本研究の背景と目的

地域の多様な主体が関わりまちづくりを推進する、いわゆる地域協働型まちづくりの先駆的な取組として、まちづくり NPO「グラウンドワーク三島（以下、GW 三島）」（静岡県三島市）の活動がある。その活動は、日本のまちづくり分野でパートナーシップが強く志向された 1990 年代初頭に始まり、初期段階に取り組んだ街なかのせせらぎ再生事業（源兵衛川）が全国的にも注目された。そうした活動に加え現在に至るまでの約 30 年間、「水の都・三島」の再生を目指した多様な活動を展開してきている。

そこで、本研究は、日本における地域協働型まちづくりの先駆的なモデルとされる GW 三島の 30 年間の活動をふりかえり、その活動の全体像を明らかにすることを目的とする。それにより、地域協働型まちづくりの持続的な運営方策について考察する。

2. 研究の方法と構成

本研究においては、GW 三島の活動の全体像をとらえる視点として、活動実態の把握、活動成果の分析、成果の要因考察および活動の課題展望を設定した。これらは、研究者自身が当該組織の一員として長期にわたり関わる参与調査を行い、事務局による一次資料を中心とした文献調査と総合させることで、活動の実態把握を行った。

3. グラウンドワーク三島の活動実態

(1) グラウンドワーク三島の事業概要 (表 1)

GW 三島のテーマ別活動は、まず中心市街地の水辺空間や市街地周辺の里山環境など、身近な環境整備および維持管理・活用事業が柱となっている。併せて、都市近郊農村の耕作放棄地再生支援活動や街なかの空き店舗再生活動など、コミュニティ・ビジネス系の活動を展開する。また、そうした多様な現場を活用して、活動の初期段階より、地域住民の幅広い層を対象にした環境教育や人材育成事業に多様なプログラムを設けて積極的・継続的に取り組んでいる。併せて、CSR に対応した企業研修、社会起業家育成プログラムなどの研修指導事業に取り組む。さらには、英国 GW をはじめ海外の環境まちづくり組織との経験・技術交流活動やバイオトイレの海外展開による環境技術協力などの国際交流活動も積極的である。

また、多様な活動の蓄積を基盤に、政策提言や計画提案も積極的に行っている。例えば、三島市への事業提案では、街なかのせせらぎ環境の保全活用アイデアを非常に具体的かつ現実的な次元で継続的に提案することで、

そのいくつかを協働事業として実現させている。

こうした幅広い GW 三島の活動は、それぞれが独立した事業というより、連携して実施される点が特長である。

表 1 グラウンドワーク三島の事業概要

事業テーマ	概要
1. 身近な環境整備・維持管理・活用	<ul style="list-style-type: none"> 大・中規模（線的、面的）：源兵衛川、境川・清住緑等～小規模（点的）：市民手作り公園等 三島市中心市街地から都市近郊農村への広がり 恒久的な環境整備と住民主体の維持管理を実現
2. コミュニティ・ビジネス（コミュニティづくり）	<ul style="list-style-type: none"> 街なか活性化、コミュニティ再生事業 シニア世代のたまり場「せせらぎシニア工房」、商店街の空き店舗を活用したコミュニティ店舗、民間市民ホールとの運営など 耕作放棄地再生活動をととした農業の展開（地域ブランド化）、グリーンツーリズム活動 環境バイオトイレほか、民間企業と連携した環境製品の開発・製品化、技術移転
3. 環境教育、地域人材育成	<ul style="list-style-type: none"> 小学校対象の環境教育プログラム、教員研修 地域住民対象の環境人材の育成プログラム 環境教育フィールド整備、環境教育教材の開発
4. 研修・指導	<ul style="list-style-type: none"> 視察体験研修受入れと国内ネットワーク形成 CSR/SDGs 企業研修プログラムへの対応 専門人材、社会起業家の育成/雇用対策連携
5. 国際ネットワーク・交流	<ul style="list-style-type: none"> 英国 GW 交流（英国 GW 本部、GW トラスト） 日韓環境交流、台湾まちづくり交流 バイオトイレ（米国、カンボジア、ネパール）
6. 政策提言、計画提案	<ul style="list-style-type: none"> 三島市への地域協働事業提案 静岡県への富士山圏域活性化事業提案 三島駅前再開発問題への提案型対応
7. 広報啓発	<ul style="list-style-type: none"> 広報媒体による情報発信、書籍の発行 シンポジウム/地域イベント等の開催

(2) グラウンドワーク三島の活動発展経緯

GW 三島の主要事業である身近な環境整備事業の展開を示すと、表 2 のとおりである。活動初期に比較的大規模な取組で、現在でも主要実績として認識されている三島市中心市街地での「源兵衛川整備事業」、「境川・清住緑地整備事業」がある。活動中期の 2000 年代より、第 2 の源兵衛川事業として市内近郊農村部での「松毛川周辺再生事業」が継続的に取り組まれ、さらに活動後期の 2010 年代より三島市郊外の里山エリアでの「大場地区桜山里山再生プロジェクト」に着手している。また、活動の初期から中期にかけて、市民手づくり公園や学校ビオトープ整備などの比較的小規模の環境整備が連鎖的・継続的に行われている点が特徴である。

また、活動の中期より三島市郊外の箱根西麓地区で耕作放棄地再生事業に取組はじめ、これを契機に街なかの空き店舗を活用したコミュニティ店舗事業、農業体験事業、地元農産物のブランド化など、活動後期より農業を軸とした収益性のあるビジネス展開を強化させている。

こうした事業展開にあわせ、組織形態も成長し、活動初期から中期にかけては NPO 法人化による組織強化と専従スタッフの雇用と多様な事業展開、営利事業への注力を図る活動後期の 2010 年代より事業拡大にあわせた子会

表 2 グラウンドワーク三島の活動発展経緯（主要な環境整備事業）

年	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
	源兵衛川整備		源兵衛川生物多様性保全活動																										
大・中規模	三島梅花藻の里整備										三島緑と水の社																		
	境川・清住緑地整備										境川・清住緑地愛護会との協働										境川・清住緑地と水の郷公園								
	松毛川周辺再生事業への取り組み										箱根西麓耕作放棄地再生										大場地区椋山里山再生プロジェクト								
	花とホテルの里整備										御蔵川ふるさとの川																		
小規模	フラワー通り演出																												
	鯉坂公園整備																												
	沢地グローバルガーデン/みどりのふれあい公園/鱒池ミニ公園整備																												
	桜川のカワバタ整備																												
	菅井戸整備																												
	腰切不動草・井戸周辺整備事業																												
	長伏小学校ピオトープ/中郷小学校ピオトープ整備																												
	三島市南高校ピオトープ																												
	函南町さくら保育園ピオトープ																												
	宮さんの川ほたるの里づくり																												
長泉町・窪の湧水池環境再生事業																													

社「(株) パートナシップトラスト」の設立、農業事業強化のための農業生産法人「アグリライフ三島」の設立を行いながら、まちづくり NPO を中心としたビジネスモデル/社会的企業化の構築を図っている。

4. グラウンドワーク三島の活動の成果（アウトカム）

GW 三島の 30 年におよぶ活動において、環境面においては、三島市中心市街地から近郊農村、都市郊外へと地域を広げながら、点・線・面的な多様な環境整備と維持管理・活用を展開してきた。そうした環境改善活動を通して、埋もれていた地域資源の顕在化や地域アイデンティティである湧水環境の保全が実現されてきた。GW 三島の活動により埋め立てを免れ再生された湧水池は数多い。また、中心市街地でホテルやカワセミの生息環境が維持され、加えて広範な活動エリアでの自然環境の保全再生活動によって、地域全体の生態系の保全に大きく貢献している。結果として、地域環境に水と緑のネットワークが構築され、三島の豊かな居住環境が形成されている。

社会面においては、GW 三島のまちづくり現場に関わる多様なプログラムを通じて、多様な人材が関わり、育成・輩出・活躍する仕組が構築されてきた。それは、GW 三島の理事・スタッフなどの中核人材を中心として、活動へのコミットメントの度合いによって同心円状に広がる人材ネットワークとして表現できる。また、三島の地域づくりに関わる多元的な関係人口としても表現される。たとえば、環境の維持管理・活用活動をとおして、地域住民がまちづくりに具体的に関与する仕組が構築されることで、いわゆるテーマ・コミュニティの形成が促進されている。また、多様な環境教育プログラムを通じて環境マインドをもつ若者が輩出されたり、コミュニティの拠り所創出事業を通じて、シニア層、女性層をはじめ、社会的な弱者を含む多様な層の社会参加が実現されている。こうした社会的企業の側面をもつ GW 三島の活動を通じて、地域の紐帯が重層的に形成され、いわば GW マインドによる価値観が地域全体に醸成されている。

経済面では、GW 三島の地域での持続的な活動を通じて、小さな地域経済循環が生まれている。たとえば、ここ 10

年の事業費は年平均約 75 百万円で、組織設立以来、総計で約 2,285 百万円を地域に還元させている。こうした活動を通じて、地域環境向上に伴う商店街の活性化、ツーリズムの進展による交流人口の増加、地域雇用の創出、地産地消の推進などが連動し、「水辺のうるおいのある街から、経済的うるおいのある街へ」というスローガンの実現が図られている。すなわち、地域協働による環境再生まちづくりを通じた地域コミュニティの活性化を基盤に、交流・関係人口が形成され、「住んでよし、訪れてよし」の地域として三島の新しい価値が創出されている。

5. グラウンドワーク三島の活動成果の要因

こうした GW 三島の活動成果を生んだ要因（ポイント）を析出すると、次のとおりである（表 3）。

表 3 グラウンドワーク三島の活動成果の生成要因

基本理念・全体方針	
・多様な主体で活動の理念・目標「水の都・三島再生」の共有 ・パートナーシップ（地域協働）による事業および組織運営	
計画手法・事業手法	組織運営手法・人材活用手法
①具体的・実践的な環境整備成果の可視化、小さな事業の積重ね、活動の達成感 ②ボトムアップ・アプローチ合意形成プロセス重視、住民管理、ワークショップ ③公共事業の戦略的な導入、県営事業等の戦略的導入、自治体との協働事業提案 ④ホリスティック・アプローチ地域課題への総合的対応、事業連鎖、社会的な課題へ	①多様な人的資源の活用 同心円状のスタッフ構造、多元的関係人口、専門人材 ②人材育成・活躍プログラム 地域人材の育成、現場での活躍の場の提供、環境教育 ③多様な資金源の確保 課題の複合化と資金源の多様化、非営利ビジネス展開 ④段階的なビジネスモデル 組織・事業の成長に対応した法人化・子会社化

6. 今後の課題の展望

今後の事業展開として、近郊農村部での環境改善活動の広がりや中心市街地での回遊性を創出する水緑空間整備事業が構想されている。一方、30 年の活動を経た組織の抱える課題として、まちづくり NPO のビジネスモデルを確立してきたとはいえ、次世代への事業承継がある。

また、喫緊の課題として、地域協働型のまちづくりによって価値が顕在化した三島の街において、人口成長期の都市開発手法を適用した駅前再開発事業が進展している。こうした開発による影響の検証と、よりよい方向への地域協働によるオルタナティブの実践が期待される。

【謝辞】本稿をまとめるにあたり GW 三島専務理事・渡辺豊博氏をはじめ地域関係者の方々に多くの助言指導を頂き、感謝いたします。

* 長野大学環境ツーリズム学部教授 博士（工学）

*Prof., Faculty of Tourism and Environmental Studies, Nagano Univ., Ph.D.